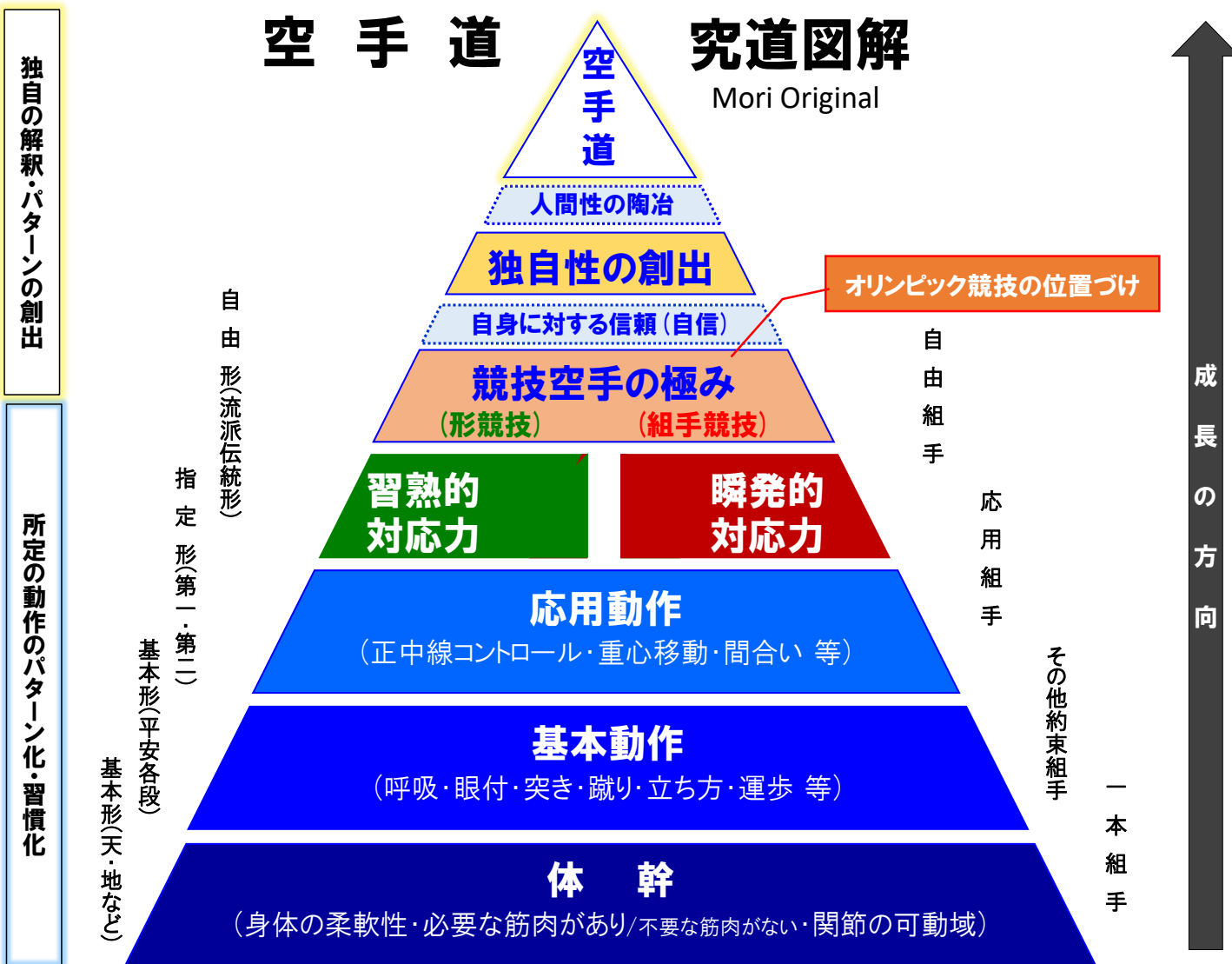


オリンピックにおける空手競技とは

新型コロナウイルス感染症が世界に蔓延して既に1年半が経過しますが、ワクチンの普及により、ようやく沈静化への道筋が見えてきたように思います。コロナ後の新たな日常が定着するまで、もう少しの辛抱です。今しばらく、感染対策を怠らずに頑張りましょう。

とは言え、一方で、オリンピック・パラリンピック東京大会が予定通り開催されることが決定し、開会式まで残り1カ月を切りました。従来の計画が踏襲されれば、空手競技は8月上旬に日本武道館で開催される予定です。参加選手にとって、十分な準備はできなかったことと推察しますが、いずれの選手も精一杯頑張ってもらいたいと思います。

ところで、元来の「空手道」と「オリンピック競技としての“組手”や“形”」はどのような関係になっているのでしょうか？ ユーラシア大陸・中国を経て琉球の手(ティ)と交わり、護身術でありつつ、「急所に対する一撃必殺」を旨とする空手道の思想に対し、ポイント累計、かつ“先取(相手より先にポイントを獲得する)”を競いあう組手競技は「(本来の空手とは)似て非なるもの」になっています。それは、本来殺傷目的の剣術が“引き切り”なのに対して、現在の競技剣道では“押し切り”が圧倒的の主流であることに似ている。ことほど左様に、武道はスポーツ化によって、本来の姿からかけ離れていくことが常になっています。しかし、私は、「競技空手」というプロセスは空手道陶冶までの一過程であり、特に若い人たちが空手道を目指す上で、ひとつの道標だと考えています。



しかしそれは、空手道に励む道のりにおいて、あくまで中間点に過ぎないことを理解する必要があります。つまり、選手として競技空手の大会に出場しなくなった時点で「空手からの引退」と考えるのは早計であり、空手道を究める道のりはまだまだ続いているということです。また、上図は若年を起点とする成長プロセスを示していますが、熟年以降から入道した場合は、上図の「競技空手の極み」のプロセスは必要としません。但し、これに代わる「自信を生み出す」ための擬似的体験を日ごろの練習を通じて実現する工夫が必要になります。さらに、この図の重要な見方を申し添えます。

- ①下層ほど基礎的な要素であり、修練を積むことで上の層を積み上げていくことを意味している。
- ②しかし、上層へ移行したといって下層が不要になるわけではなく、下層を維持しつつ上層を積み上げていくという理解が必要。
- ③つまり、熟練度が増し、上位の段位の者ほど、保持すべき課題が多いことを意味している。だからこそ、下位者から敬われる存在だということを実感すべきなのである。

ちょっと理屈っぽい話になりましたが、こういった空手道の全体像を理解した上で、大いにオリンピックの空手競技を観覧し楽しんでいただければと思います。

2021年7月1日



日本空手道錬聖会
会長 森 拓生